

概況総括：『全体的に底は脱したものの、依然仕事量としては十分ではなく、先行きについては慎重』

【調査概要】

1. 今期(平成 28 年 7-9 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は「原材料単価」2.2(前回 1.0)、「来期受注」4.8(前回▲1.7)の 2 項目となった。(前回は「原材料単価」の 1 項目)
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」▲10.9(前回▲34.6)は、6 月に国のものづくり補助金の採択結果が出たことで、前期停滞していた受注が動き出したこともあり、大きく数字を戻した。
 「受注単価販売価額」▲8.5(前回▲10.0)、「収益状況」▲14.7(前回▲24.6)、「原材料単価」2.2(前回 1.0)、「取引条件」▲0.7(前回▲2.4)も改善傾向にある。
 一方で、「資金繰り」▲7.7(前回▲4.8)は前期売上高が低迷したこともあり悪化となった。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲5.8(前回▲8.9)、「受注残」▲5.3(前回▲7.5)、「生産設備」▲1.6(前回▲2.2)の 3 項目いずれも改善傾向にあるが、仕事量としてはまだ十分な量ではなく、依然設備投資については慎重である。
3. 前回から改善傾向にある来期 3 項目では、「来期受注」4.8(前回▲1.7)は 8 期ぶりにプラスとなり、「来期採算」▲5.2(前回▲12.1)、「来期資金繰り」▲5.1(前回▲12.1)も引き続き改善しており、底は脱した感がある。
4. 「企業経営上の悩み」については、上昇傾向にあった「受注不安定」44.9(前回 51.9)が減少し、「人材不足」26.2(前回 24.7)は依然として高い。
 また、前期仕事量が全体的に少なかった状況もあり、「競争激化」10.1(前回 5.6)も上昇している。
5. 前期は、中国をはじめとした新興国経済の低迷や、ものづくり補助金の採択待ちによる受注の低迷もあって、全般的に後退していたが、今期は補助金の採択結果などにより、停滞していた受注が動き出し、多くの項目が改善した。
 しかしながら、続く中国等の新興国経済の低迷や円高の影響により、県内製造業全体を見渡すと、仕事の総量としてはまだまだ十分な量ではなく、景況は改善傾向にはあるが、依然慎重な見方をしている企業が多く、国・県による平成 28 年度補正予算等での経済対策に期待したい。

